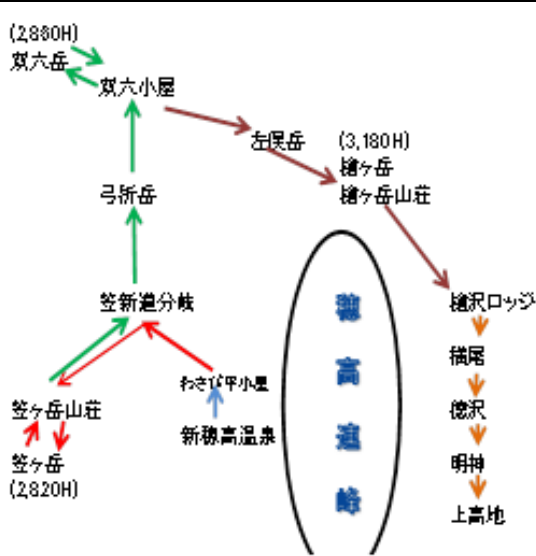


山行報告書

笠ヶ岳・槍ヶ岳縦走

藤村 敏幸

山名	笠ヶ岳・双六岳・槍ヶ岳	山行名	笠ヶ岳・槍縦走 (例会)
ルート	新穂高温泉→笠ヶ岳→双六岳→槍ヶ岳→上高地		
山行日	平成30年9月25日～9月29日	天候	3日曇り, 1日快晴, 1日雨
参加者	CL 藤村 SL 西川 会計 上田 記録、伊藤多恵子 合計 4名		



コースタイム		大ノマ乗越	11:00
9月	地名	時:分	双六小屋着
25	京都駅八条口発	9:00	双六岳往復
	新穂高バス停着	15:30	28 双六小屋発
	わさび平小屋着	17:00	左俣乗越
26	わさび平小屋発	4:40	千丈沢乗越
	杓子平着	10:25	槍ヶ岳山荘着
	笠新道分岐着	13:05	殺生分枝着
	笠ヶ岳山荘	15:05	槍沢ロッジ着
27	笠ヶ岳山荘発	6:15	29 槍沢ロッジ発
	笠新道分岐着	8:00	上高地着
	秩父平着	9:25	京都駅八条口着

当初8月19日出発を予定していたが天候が不安定で更に台風接近により延期して実施する。9月26日の笠新道の急登は、歩行時間が長く更にエスケープもできないので、山小屋まで全員着けるようコースタイムの1.4倍の時間を掛けて、十分休憩をとりながらゆっくりと登る。27,28日は、登りは15分歩行で5休憩、下りは20分/5分、稜線はメンバーの疲れぐあいを見て調子がよければ30分/5分で歩く。28日の西鎌尾根では、面倒であるが、鎖場がある毎にストックをザックに納めた。槍ヶ岳までは天候に恵まれ予定より早く到着し、穂先で大パノラマを見る。29日の午前中が雨になるとの予報があり予定を変更し、槍沢ロッジまで4時間掛けて下る。槍沢ロッジでは、到着(17時50分着)が遅く、受付より午後4時以降は予約の有無に関係なく素泊扱いになると言われる。夕食は全員の非常食を持ち寄り屋外の炊事場での寂しい食事となる。全員健脚であるが、毎日約9時間程我慢強く歩き通したことについて、CLとして感謝します。到着が遅いことを理由に、登山者の事情などお構いなしに、全て素泊まり扱いとする槍沢ロッジの姿勢は、まことに残念であった。

9/	行程	コース時間	予定歩行時間	実歩行時間	登山道の特徴
25	新穂高口～わさび平小屋	80分	96分(1.2倍)	90分(1.12倍)	緩やかな登り道
26	笠新道口～笠ヶ岳山荘	465分	614分(1.3倍)	625分(1.34倍)	厳しい登り道
27	笠ヶ岳山荘～双六小屋	445分	505分(1.1倍)	570分(1.28倍)	凹凸のある稜線
28	双六小屋～槍ヶ岳山荘	375分	477分(1.2倍)	435分(1.16倍)	凹凸が少ない稜線
	槍ヶ岳山荘～槍沢ロッジ	190分	228分(1.2倍)	240分(1.26倍)	足場の悪い下り道
29	槍沢ロッジ～上高地	270分	281分(1.0倍)	285分(1.06倍)	整備された平坦道
実歩行時間合計 2,245分、初日を除く1日平均538分8.9H					

ヒヤリハット 無し () はコース時間に対する倍率

北アルプス縦走感想～Into the Sky

8月末に行く予定だった北ア縦走。荷作りも終え、行く気満々でいたのに天候の悪化により直前に取り止めの連絡が。9月末に再トライとなったが、9月4日の台風の後始末に頭を悩ましたり、(毎日雨ばかりで)歩きにも行けなくて気分がウツウツとしていた。しかも右足首の痛みと違和感で不安も大きくなった。風船がプシューッとしぶんでしまったみたいに気分が盛り上がらない。そんな中、奇跡的に天候が好転したため、GO!となった。笠ヶ岳～双六岳～槍ヶ岳～上高地、4泊5日の4人での山旅だ。

結果から言うと、つくづく、しみじみ、行って良かった…と。まるで天の神様が見せてくれたような美しい山並みが待っていた。

1日目。京都からバスを乗り継いで新穂高温泉に。朝からの雨は、もうあがっていた。1時間余り歩いて、わさび平小屋に着く。小屋では、8月に増築したばかりの木の香りが漂う部屋に入れてもらう。小屋はすいていて、アルバイトのお兄さんが、「立ち寄って食事はしても、通過する人ばかりで…」と悲しそうな顔で言う。彼は、朝一番にお湯を用意してくれたり、親切に対応してくれた。

2日目。4:40出発、三大急登の一つと言われる笠新道に向かう。以前、わさび平小屋に泊まった時、同室の女性が「笠新道はこれまで登った中で一番きつかったァ!」と言っていたのを思い出した。私たちもかなりのモノ好き? CLの藤村さんは、計画段階からこの登りを4割増しにしてあり、15分ごとに、後になってからは10分ごとに5分の休憩を取ってくれた。実際、そのぐらい休憩しないと息が続かない登りだ。途中で平らになるところが全くなく、上りっぱなし。それでも、最初のうちは眼下に雲海を眺めながら高度を稼ぎ、やがて槍を含む穂高連峰のシルエットも見え始める。雄大な風景に助けられながら、5時間半かかってようよう杓子平に着く。これで急登も一段落と思いきや、何の何の。笠新道分岐までの上り、また最後の笠ヶ岳山荘までの上りとなかなか許してくれない。ただ、笠新道分岐で合流してからの尾根歩きの素晴らしかったこと!一気に穂高連峰が大きく迫って来て、みんな口々に「ワー!すごいなァ!」と嘆声を上げる。反対側には、黒部五郎、鷲羽、水晶、薬師などの名峰が。どちらを見てもほれほれとする。

ほぼ予定通りの時間に笠ヶ岳山荘に到着。ガスで周囲が見えなくなっていたが、荷物を置いて笠ヶ岳山頂まで往復。

*みなさんの笠新道の一口感想:西川さん「ああ、しんど」

藤村さん、上田さん「想像以上にきつかったー」

3日目。今日は再びあの素晴らしい尾根歩きができるとわくわくしながら出発。ところがあいにくのガスで昨日ほどの景色にはならない。それでも、ほぼ平坦な長い尾根歩きが続き、気分は爽快。昨日の急登を思えば、今日はずいぶん楽なはずとタカをくくって、秩父平、大ノマ乗越、弓折乗越と越えて行く。が、次第に身体全体に疲れがたまってきた感じになり、足が重くなる。13:25双六小屋に着いて部屋に上がるやいなや、横になる。藤村さん、西川さんはガスに包まれた双六岳に。元気だなあ～。

4日目。やったー、雲一つない快晴!念願の西鎌尾根から槍ヶ岳への縦走の日がこんなに素晴らしいお天気になるなんて、何という幸運。昨日の疲れもすっ飛んで行ったようで、足も軽い。それに、この縦走路の美しさは想像以上。歩いて行けば行くほど、前にも後ろにもはるかな縦走路が眼に入る。ああ、いいなあ、これぞ縦走の醍醐味。霜柱を踏みしめ、硫黄岳の硫黄の臭いをかぎ、北アルプスの重なりに目を奪われる。途中、左右に切れ落ちたヤセ尾根あり、鎖場ありと適度な緊張も。左俣、千丈沢と二つの乗越を経て、ぐんぐんと槍の姿が大きくなる。最後は突き上げるような急登だが、ゆっくりとしたペースを崩さず着実に上る。丁度お昼に槍ヶ岳山荘に着く。昼食後、槍の穂先に向かう。空は依然として真っ青。登っている人も少なく、自分のペースで登れそう。とはいえ、緊張感一杯。初めての槍ですから…。1ヵ所、張り出した大きな岩にどう足をかけようかと悩んでいると、後ろから上田さんが「(鎖を通して)金具に足をかけたら」とアドバイスをくれ、乗り切れた。最後のハシゴを登り切ると、空に吸い込まれるように頂上に出た。タタミ3畳分ぐらいの狭い場所だ。先着者3名、後続者もぼつり、ぼつり。思わず、仲間みんなに握手して感謝の

気持ちを伝えた。

下りはさらに慎重に。途中から、西川さんにアドバイスをもらいながら。

*槍の一口感想：藤村さん「巨大な岩稜に圧倒された」上田さん「穂先に登って楽しかった！」西川さん「めったに見られない青空とみなさんのひきつり気味の笑顔を見るのが楽しかった。」

明日は雨という予報なので、予定を早めて、槍沢ロッジまで下ることに。ここの下りでもナナカマド、ミネカエデの紅葉がきれいで、秋の山を堪能する。槍沢ロッジで宿泊（素泊まり）。

5日目。雨の中、上高地まで歩き、入浴後、バスで帰京。お疲れさまでした！

*旅の一コマ。藤村さん「10mのロープを持ってきましたけど、使い方もわかりませんから、まあ、『魔よけ』ですわ。」（『魔よけ』のために、そんな重たいものを持って来てくれるなんて…。でもおかげで無事でした。）

西川さんは（子供みたいに）嫌いなトリのから揚げを「はい」と私のお皿やお弁当箱に入れたのですが、あんなにたくさんのブドウをふるまってくれたから、まあ、いいか…。

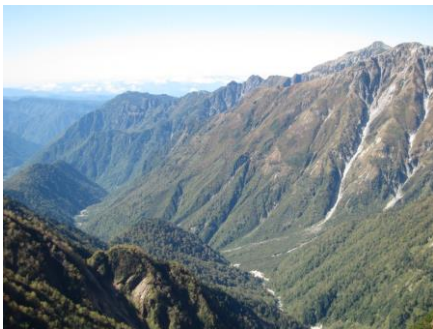
上田さんはいつもテキパキと会計をしてくれます。ありがとうございました。（伊藤多恵子）



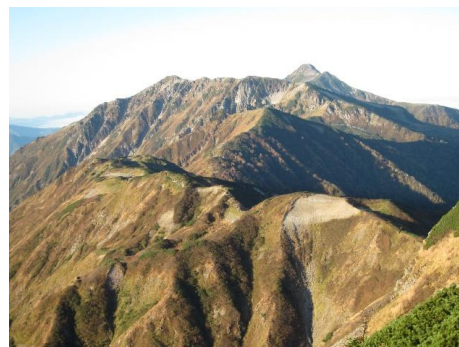
笠新道から見る雲海



穂高連峰の西壁



西鎌尾根から見る笠新道



西鎌尾根から見る笠ヶ岳



槍ヶ岳山頂